地域おこし協力隊通信

みんなのしあわせ図鑑

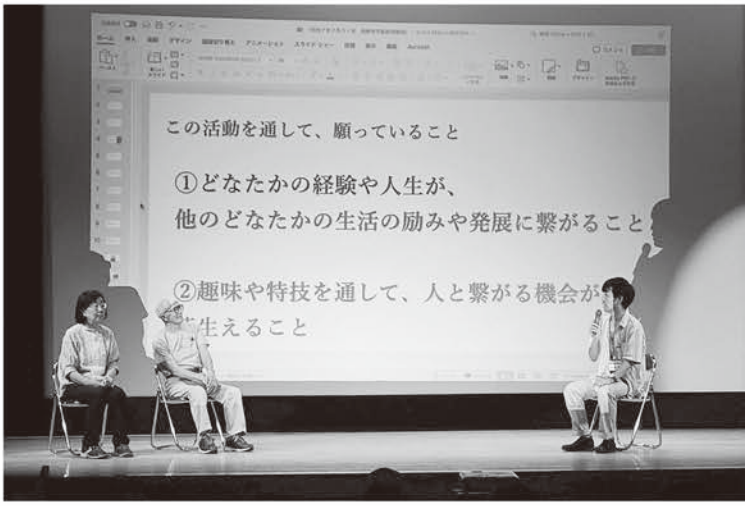
10月26日(日)のふれあいまつりをもって、「みんなのしあわせ図鑑」を創刊いたしました。

「しあわせ図鑑」とは、皆野町で暮らす一人ひとりの「しあわせのエピソード」を取材し発信する冊子です。暮らしや思い出、趣味、技術、仕事、まちづくり、人とのつながりなど、人それぞれの「しあわせの種」が、冊子を通して他の人へと行き渡り、新たな出逢いを通してその種が開花していく様子を追いかけて発信をします。

今回制作にいたったのは、これまで教育活動などに携わる中で、「いくつになっても、誰であれ、しあわせに生きられる。そんな社会であってほしい」と願うようになったからでした。その時に大切になるのが、「好きなこと」と「人」との出逢いや交流、そして器となる地域なのではないかと感じました。言葉と写真を通して伝える冊子を製作し、そのつなぎ手となれればと思いました。

実際にさまざまな町民のかたと関わる中で、本当に多彩な趣味や特技をもつかたがいることに気付きました。「熱いバトン」を必要とする誰かに渡したい、そんな気持ちにさせられます。

宇佐川　拓郎



しあわせ図鑑創刊号に掲載した町民のかたとの写真

皆野高校　最後の文化祭

皆野高校の最後の文化祭「秋桜祭」の企画や準備に携わり、在校生・卒業生・地域をつなぐ文化祭をめざしました。

「最後の授業」では「最後のチャイムが鳴る前に伝えたいことがある」を副題に、新井猛先生とやり投げ五輪選手の新井涼平さんが特別授業を行い、来場者が久しぶりに“生徒”へ戻る時間となりました。

また、卒業アルバムや大和カメラさんから提供していただいた昔の町や学校の写真を展示し、かつての学校や自分に再会する「タイムスリップ皆野」の空間をつくりました。生徒たちが人数の関係で断念していたお化け屋敷も、世界一周大学の協力で形にし、多くの悲鳴と笑顔が生まれました。「歌を歌いたい」という生徒の夢が叶った瞬間にも立ち会えました。

皆野高校の“最後の文化祭”に関われたこと、そして生徒達、先生や皆さんに出会えたことは、僕にとってかけがえのないものとなってます。ありがとうございました！

東　廉太郎